



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

高度経済成長以降の中国におけるトウモロコシ生産、流通の基本構造に関する研究—内モンゴル自治区通遼市を中心として—

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-08-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 呉, 銀玲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/56211

氏 名 (本 国 籍)	吳 銀 玲 (中 華 人 民 共 和 国)
学 位 の 種 類	博 士 (農 学)
学 位 記 番 号	農 博 甲 第 6 6 3 号
学 位 授 与 年 月 日	平 成 2 9 年 3 月 1 3 日
研 究 科 及 び 専 攻	連 合 農 学 研 究 科 生 物 生 産 科 学 専 攻
研 究 指 導 を 受 け た 大 学	岐 阜 大 学
学 位 論 文 題 目	高 度 経 済 成 長 以 降 の 中 国 に お け る ト ウ モ ロ コ シ 生 産 、 流 通 の 基 本 構 造 に 関 す る 研 究 — 内 モ ン ゴ ル 自 治 区 通 遼 市 を 中 心 と し て —
審 査 委 員 会	主 査 岐 阜 大 学 教 授 富 樫 幸 一 副 査 岐 阜 大 学 教 授 荒 井 聡 副 査 静 岡 大 学 准 教 授 柴 垣 裕 司

論 文 の 内 容 の 要 旨

本研究は、高度成長期以降の中国におけるトウモロコシ生産、流通の基本構造について、内モンゴル自治区の実証的分析を中心として体系的に明らかにしたものである。中国では高度経済成長とともに、トウモロコシの飼料需要、工業用原料需要が大きく高まり、生産量も大幅に増加した。この過程で労賃上昇、機械化の進展、それに伴うトウモロコシ経営規模の拡大、兼業化の進展など農業経営構造は大きく変化した。また、生産量の拡大に対応した流通機構の整備が課題となっていたが、2010年頃から民間食糧流通企業が発展し、さらに合理的・効率的なトウモロコシ流通の仕組みが作られてきた。

そこで本研究は、第一に中国の高度経済成長にともなうトウモロコシ生産構造の高度化の特質について、関連統計分析と関連機関へのヒアリングをふまえて、通遼市の典型的なトウモロコシ生産地域である舍伯吐鎮（シュバトウチン）を対象地とした実証研究から明らかにした。具体的には、一般村であるS村から30戸の農家を、また「新農村建設」事業のモデル村となったN村から20戸の農家をそれぞれ抽出して経営分析を行い、比較検討した。

それによれば、S村では農業機械の普及にともないトウモロコシ作労働時間が大幅に削減され、請負耕地の貸借を通じた規模拡大が一部で進行していること、しかし小規模農家の多くは、兼業に従事しつつ、自分の請負耕地の耕作を継続していることなどの特徴を明らかにした。さらに新農村事業の指定を受けたN村では、2011年に農業機械サービス合作社が設立され、より効率的な農作業受委託システムが構築された。これにともない機械委託費、生産費は一般村と比較してさらに低下し、兼業化をさらに進めるとともに、有畜複合経営化により在宅兼業化、出稼ぎ解消など定住条件が整備されていることを明らかにした。

第二に、高度経済成長にともなう食糧流通システムの改革がトウモロコシ流通に与えた効果を明らかにした。従前の中国のトウモロコシ流通は、公定価格による強制供出と配給とが結合した直接統制システムであった。それが改革以降 2004 年までに市場における価格形成と農家の自由販売を前提とする流通システムに転換した。そこで通遼市で操業する民間食糧流通企業 15 社、集荷業者 5 社、及び関連農家 30 戸を抽出し経営分析を行い、流通改革による効果を解明した。あわせてトウモロコシ加工企業 10 社を抽出して経営分析を行った。食糧流通体制の自由化により集荷業者の機能が発揮されるようになったことで、トウモロコシ流通が効率化され販売難が解決されたこと、また流通費用が大幅に低下したこと、これにともない生産農家の所得が好転していることを明らかにした。

しかし近年、中国政府の最低買付制度と国家備蓄制度の継続によりトウモロコシ市場価格は高騰し、原料高が進み、加工企業が経営的に苦境に陥っていることも明らかとなった。これにより加工企業のトウモロコシ買付量が減り、国家備蓄倉庫の備蓄量が増大した。

これらの分析をふまえ、農家所得確保のための農業合作社の有効性、農家の市場適応力の醸成の必要性、トウモロコシの生産調整の必要性などの諸点を指摘した。

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、高度成長期以降の中国におけるトウモロコシ生産、流通の基本構造について、内モンゴル自治区の実証的分析を中心として体系的に明らかにしたものである。中国では高度経済成長とともに、トウモロコシの飼料需要、工業用原料需要が大きく高まり、生産量も大幅に増加した。この過程で労賃上昇、機械化の進展、それに伴うトウモロコシ経営規模の拡大、兼業化の進展など農業経営構造は大きく変化した。また、生産量の拡大に対応した流通機構の整備が課題となっていたが、2010 年頃から民間食糧流通企業が発展し、さらに合理的・効率的なトウモロコシ流通の仕組みが作られてきた。

そこで本研究は、第一に中国の高度経済成長にともなうトウモロコシ生産構造の高度化の特質について、関連統計分析と関連機関へのヒアリングをふまえて、通遼市の典型的なトウモロコシ生産地域である舎伯吐鎮（シユバトウフン）を対象地とした実証研究から明らかにした。具体的には、一般村である S 村から 30 戸の農家を、また「新農村建設」事業のモデル村となった N 村から 20 戸の農家をそれぞれ抽出して経営分析を行い、比較検討した。

それによれば、S 村では農業機械の普及にともないトウモロコシ作労働時間が大幅に削減され、請負耕地の貸借を通じた規模拡大が一部で進行していること、しかし小規模農家の多くは、兼業に従事しつつ、自分の請負耕地の耕作を継続していることなどの特徴を明らかにした。さらに新農村事業の指定を受けた N 村では、2011 年に農業機械サービス合作社が設立され、より効率的な農作業受委託システムが構築された。これにともない機械委託費、生産費は一般村と比較してさらに低下し、兼業化をさらに進めるとともに、有畜複合経営化により在宅兼業化、出稼ぎ解消など定住条件が整備されていることを明らかにした。

第二に、高度経済成長にともなう食糧流通システムの改革がトウモロコシ流通に与え

た効果を明らかにした。従前の中国のトウモロコシ流通は、公定価格による強制供出と配給とが結合した直接統制システムであった。それが改革以降 2004 年までに市場における価格形成と農家の自由販売を前提とする流通システムに転換した。そこで通遼市で操業する民間食糧流通企業 15 社、集荷業者 5 社、及び関連農家 30 戸を抽出し経営分析を行い、流通改革による効果を解明した。あわせてトウモロコシ加工企業 10 社を抽出して経営分析を行った。食糧流通体制の自由化により集荷業者の機能が発揮されるようになったことで、トウモロコシ流通が効率化され販売難が解決されたこと、また流通費用が大幅に低下したこと、これにともない生産農家の所得が好転していることを明らかにした。

しかし近年、中国政府の最低買付制度と国家備蓄制度の継続によりトウモロコシ市場価格は高騰し、原料高が進み、加工企業が経営的に苦境に陥っていることも明かになった。これにより加工企業のトウモロコシ買付量が減り、国家備蓄倉庫の備蓄量が増大した。

これらの分析をふまえ、農家所得確保のための農業合作社の有効性、農家の市場適応力の醸成の必要性、トウモロコシの生産調整の必要性などの諸点を指摘した。

以上について、審査委員全員一致で本論文が岐阜大学大学院連合農学研究科の学位論文として十分価値のあるものと認めた。

[博士論文の基礎となる学術論文]

1. 呉銀玲・朝魯門・荒井聡 中国における「新農村建設」事業が農家所得の向上に果たす役割と課題 —内モンゴル自治区通遼市N村を対象として— 『農業市場研究』第 25 巻第 4 号掲載決定、印刷中。

2. 呉銀玲・朝魯門・荒井聡 機械化段階における中国トウモロコシ生産地域の農業構造の特質 —内モンゴル自治区通遼市を事例として— 『農業・食料経済研究』第 62 巻、第 1 号掲載決定、印刷中。